

高知県の地形と地質

【現 状】

高知県の面積比率は山地 84.3%、丘陵 6.1%、台地・段丘 2.7%、低地 5.7%で、四国四県の中でもっとも山地に富み低地が乏しい県です。山地や丘陵は数億年前～千数百万年前の堅い岩盤からなっています。それに対して、台地・段丘や低地は数百万年前～現在の柔らかい地層からできています。

【変 化】

高知市、南国市、四万十市、宿毛市などの市街地は、大きな河川の河口域に発達した平野（1 万年前～現在に形成された臨海沖積平野）に位置しています。臨海沖積平野の一部には柔らかい泥や腐った植物が厚く堆積した場所があります。そのような場所はこれまでは遊水地（湿地帯）や湿田として利用されるにすぎませんでした。しかし、都市の発達に伴って、このような場所が埋め立てられ、宅地として開発・利用されるようになりました。そこでは埋め立てに用いた土砂の重みによって地盤が沈下し、建物や橋などの抜け上がりや不同沈下現象が起これ（写真 1）、建造物の破壊が進行しています。巨大地震発生時の災害が心配されます。

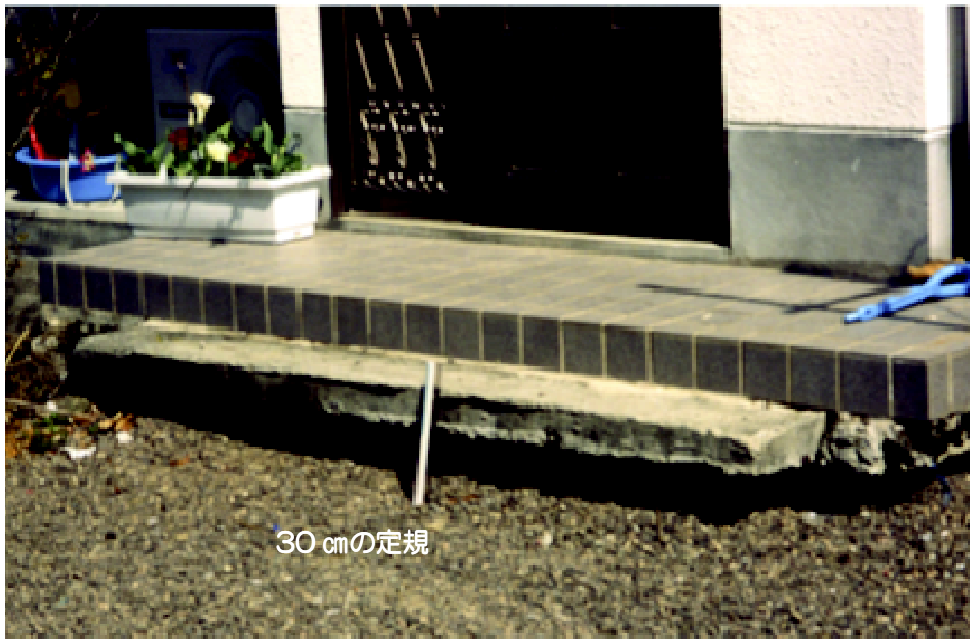


写真 1. 地盤沈下によって抜け上がった家屋

【人とのかわり】



写真 2. 地震によって隆起した室戸半島の大地



写真 3. 山地の地滑り地帯に発達した集落

高知県の山地は地形が急で岩石がもろいため、地滑りや斜面崩壊が多発し、深刻な災害をおよぼすことも少なくありません。また、南海地震のような巨大地震による被災の歴史を繰り返しています。しかし、平地の少ない高知県においては居住地・耕作地・道路などは、地震や地滑りによって生み出された低平な土地の上にあります。

南海地震が起これると室戸岬や足摺岬は隆起し、高知平野は沈降することが知られています。沈降域には鏡川や物部川が運ぶ土砂が堆積します。これが繰り返すことによって、肥沃な土砂が厚く堆積した高知平野や香長平野が形成されました。隆起域の室戸岬や足摺岬では海面下にあった岩盤が海面上に現れ、新しい大地となりました（写真 2）。四国山地では地滑りや斜面崩壊によって低平な土地が形成され、数少ない生活の場になっ

ています（写真 3）。安心で安全な生活環境を確保するためには、大地の生い立ちや自然の営みを理解し、それに配慮した町づくりやライフスタイルの創出が求められます。

吉倉紳一（高知大学理学部）